

新櫓下豊竹古靱大夫に寄す

淨瑠璃界の重鎮豊竹古靱大夫には賤拙の新春に當り、文樂座櫓下の榮位に就かることゝなりました。今後一層同師に期待するもの多いと思ひますので、同師への希望、注文、警告等、日頃抱懷せられるところを洩らして頂くやう諸名士に懇請いたしその御回答を得ました分を左に掲げるとこといたしました。
(順序不同は御許し願ひます。)

○ 安 藤 鶴 夫

一、無理でない注文(或は無理かも知れぬ注文)
文樂座のレパートリイをみどり式から、本來の藝題をたてゐることに改めて下さい。昨年に至つて、俄に拙劣な演出が多くなつたことは恐ろしいことです、作品のよさにのみ手頼つて、古典藝術云々を振り廻すのは戒心せねばなりません。
二、無理な注文(或は無理でないかも知れぬ注文)
風邪を引かないで下さい。病氣でもない時に、醫者にかゝるやうな神經質はやめて下さい。

○ 木 谷 蓬 吟

在來の謂ゆる紋下は、その名稱も實績も曖昧であつた。
古靱氏の新「櫓下」は、その歴史的意義の示す通り、大阪城の櫓下、一座の棟梁として——自家藝道の精進は云ふまでもないが——特に我が淨瑠璃軍の先鋒を承つて、斯道への自覺と反省に、先づ善處ありたいと祈る。

○ 平 山 蘆 江

古靱さんが文樂座の紋下になられたことは、文樂座のために大層よい事だと思ひます。古靱さんの人柄と、藝柄とは別です。たゞ文樂座が古靱さんによつてよくなれば、後進の道が開けるし、やがて文樂萬歳を唱へる時が招來すると思ひますから。

○ 石 井 琴 水

古靱大夫師に對する小生の希望も注文も、小生が雑誌を發